

経営比較分析表（平成30年度決算）

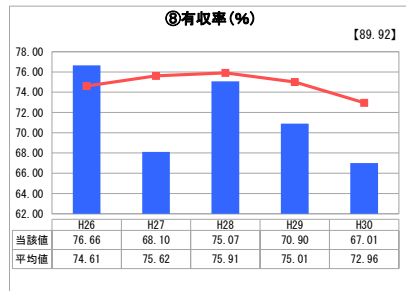
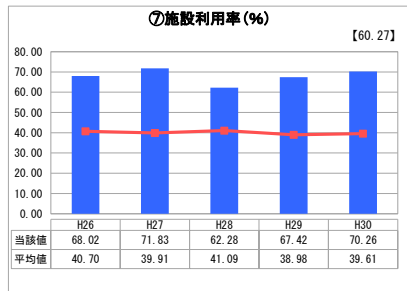
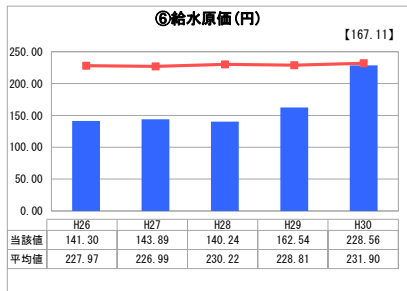
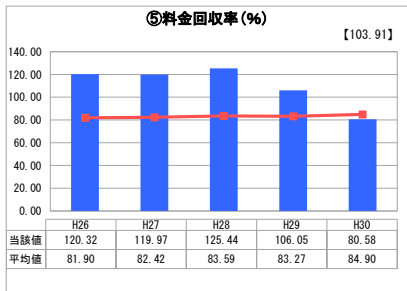
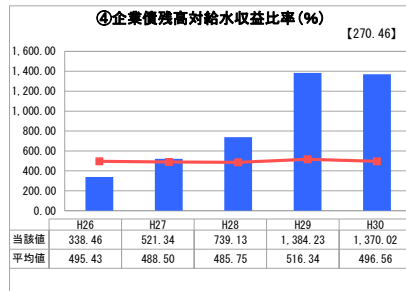
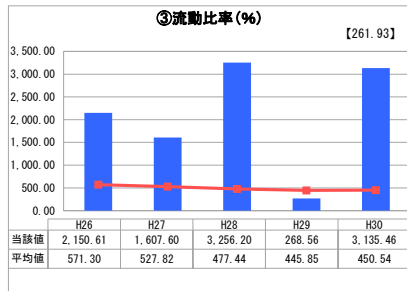
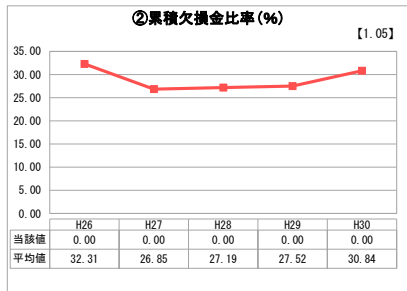
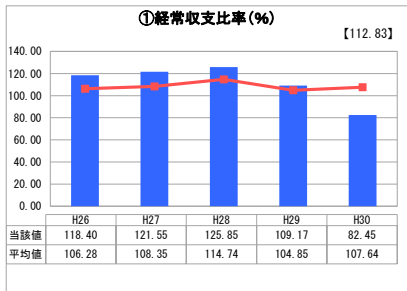
山形県 小国町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客産料金(円)	
-	49.23	59.98	3,693	

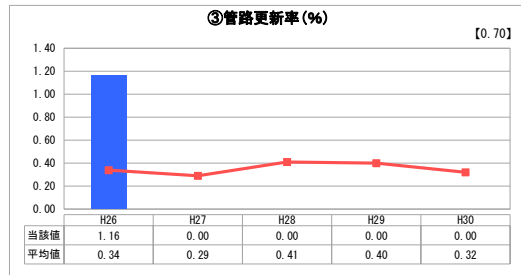
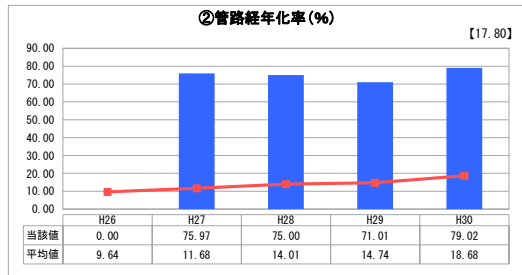
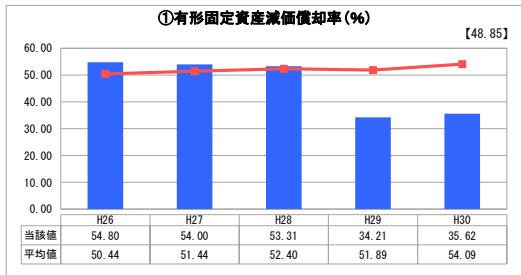
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,612	737.56	10.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,550	6.92	657.51

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

(収益の分析)
 経常収支比率は減価償却費の増加もあり2年連続で前年度を下回っており、料金回収率も低下していることから、今後の経営努力が求められる。有収率の落ち込みも顕著であり、漏水調査と老朽配管の計画的な更新が望まれる。

(企業債残高)
 新たな水源池及び配水池の整備により、大きく平均値を上回っている。一連の設備投資は完了したものの、企業債償還に係る費用を確保するためにも料金改定を含めた安定的な給水収益の確保に向けた対応を要する。

(施設利用率分析)
 給水人口は減少したものの、施設利用率は継続して平均値を上回っている。

(経営の健全化、効率性の分析)
 安定的な給水収益によって累積欠損金もなく、安定的な経営を続けてきたところであるが、H28からの施設への設備投資の影響により給水原価が大きく増加している。合わせて、企業債残高も増加していることから、将来的な安定給水と安定経営を維持するために料金改定を含め、更に効率性の高い経営を模索していくことが求められる。

2. 老朽化の状況について

新水源池及び配水池の整備を優先して実施してきたことにより、管路更新が進んでおらず、管路経年化率が平均値を大きく超えている状況であるため、今後は経営状況を踏まえて、計画的に管路入れ替えを実施していく予定である。

全体総括

新水源池等完成前の平成29年度までは健全な経営だったが、設備投資に伴う企業債残高及び減価償却費の増加が顕著であり、経営への影響も大きいことから、料金回収率や有収率の向上や経営努力によるコスト削減に努めながら、料金改定を視野に入れて、真に必要な設備投資に的を絞って、より効率的な経営を進めていかねばならない。